

私の好きな日本の言葉 —私からあなたへのメッセージ

寧波工程学院 劉詩意

私の好きな日本の言葉は「月が綺麗ですね」です。

これは夏目漱石による言葉だと言われています。英語教師をしていた頃の漱石が「I love you」を「君を愛してる」と翻訳した教え子を見て、「日本人はそんなことは言わない。月が綺麗ですねとでも訳しておけ」と言ったのだそうです。その記事を見た私は、初め分かりませんでした。「月が綺麗ですね」の一体どこに「I love you」の意味があるのでしょうか。

ネットでいろいろな資料を調べて、ようやく納得しました。まず、「I love you」は、相手に向かって愛を伝える、シンプルで直接的なメッセージです。そこで大事ななのは、二人は向かい合っており、視線を合わせているということです。つまり「I love you」は相手の目を見て発する言葉なのです。そこには二人しかいません。しかし、「月が綺麗ですね」に登場するのは、発言した「私」と、それを投げかけられた「あなた」、そして「月」です。「I love you」と違い、ふたりは同じ方向を、月を見ているのです。「月が綺麗ですね」と言い、「そうですね」と返ってくる。つまり、二人が同じ物を一緒に眺めながら、美しさを共に感じ、心を通わすことの中に、愛を確認しているわけです。「月が綺麗ですね」は「I love you」のように直接的に言わないからこそ、しっかりと伝わってくるのです。

そのことを理解したうえで、もう一度この言葉を読んでみました。ふたりは月の光の下で愛を確認し合っているイメージが自然に浮かび上がってきました。静かでありながらもロマンチックな雰囲気、思わず「月が綺麗ですね」という言葉が好きになりました。

ところで、最近中国で「土味情話」（俗っぽい睦言）という愛を直接的に表す言葉がネット上で流行っています。例えば、「僕に足りない物は何か知ってる？君だよ！」とか、「私の心の位置を当ててみ？左？ブブー、君のところにあるんだよ」とか、「何か焦げた匂いしない？私の心が燃えているからよ。」どうですか。このような軽薄な愛のささやきを聞いたら、恥ずかしくなり、ださいと思うと同時に、でも、少し胸がどきどきします。それゆえ、確かにこのような言葉は今、中国の若者に人気があります。

しかし「土味情話」というのは、何回か聴くと新鮮な感じが無くなって、すぐ飽きてしまいます。初めて聞いたときは面白いですが、笑ったらすぐ忘れてしまいます。それに反して「月が綺麗ですね」はとても深みのある文句です。愛を語る言葉は多いですが、その中でも、特別輝いています。泥の中の蓮の花のようだとと言えるかもしれません。「月が綺麗ですね」を繰り返し、意味を理解した後、この言葉は深く私の心に刻まれて、忘れがたく、思い出すたびに、あふるような愛が心に湧いてきます。「土味情話」のそれとは比べものにはならない、雲泥の差の味わい深さです。

それにしても、どうして「月が綺麗ですね」のような奥ゆかしさのある愛の言葉が流行っていないのでしょうか。味わい深いその言葉は、騒がしいネット世界にはなかなか似合いません。それに、私自身もこの言葉がすごく好きですが、恋人に告げることはしないで、心の中に静かにしまっておくかもしれません。

確かに「月が綺麗ですね」という言葉はネットで流行ってはいませんが、何十年も伝わって、有名な愛の言葉となりました。「土味情話」のような目を引くものは流行りやすいですが、やがて見捨てられ、人々は忘れてしまいます。目を引くものはいろいろあっても、人の心をとらえ、後世に伝わるのは「月が綺麗ですね」のような味わい深い、美しい表現だけではないでしょうか。

「月が綺麗ですね」はまさに日本人らしい、奥ゆかしい愛の言葉です。今、この風流で情緒のある愛のメッセージを、中国の皆さんにお届けしたいと思います。